

# MTP60-JP クイックガイド

トランスミッター  
MTP60-JP



レシーバー（スロットインタイプ）  
： MCR54-B3

# トランスミッター (MTP60) の導入

## 電源

底面のバッテリー収納部に単三電池か専用充電電池を装着して利用できます。USB-C コネクタは PC 接続してサービス用に利用します。



### ▶ バッテリー

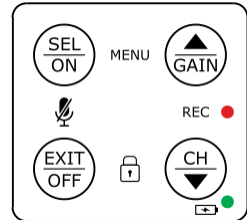
単三アルカリ電池 2 本か、MPRLBP (リチウムイオン充電電池) を利用できます。単三型電池の極性は蓋側に記されています。バッテリータイプはメニューで (Alkaline, Lithum, NiMh,) を指定できます。アルカリ電池で約 7 時間利用できます。

### ▶ 電源投入

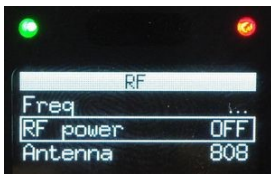
【SEL/ON】 ボタンを押すと電源が入ります。

#### ヒント!

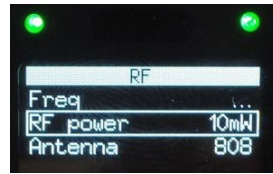
【EXIT/OFF】 ボタンを押すと電波を出さずに電源を入れることができます。この状態から、【SEL/ON】 ボタンを長押しすると電波を発射することができます。



停波中(赤) ↓



発射中(緑) ↓



※ LED の点灯モード 'FULL' 設定時。

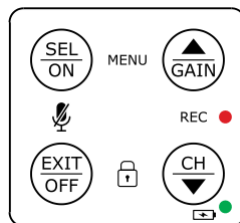
### ▶ 電源を切る

【EXIT/OFF】 ボタンを長押しするとカウントダウン後に電源が切れます。

※キーロックされている場合は、【EXIT/OFF】 と【CH】 ボタンを同時に押し解除してください。

## ▶ ロックモード

【EXIT/OFF】と【CH】ボタンを同時に押すと、誤操作を防ぐためのロックモードを切り替えられます。ロックされるとディスプレイに鍵のアイコンが表示されます。



## Menu 操作

レーザーの電源が入った状態で、【SEL/ON】と【GAIN】ボタンを同時に操作すると、MENU リストの設定オプションを変更することができます。

## マイク

### ▶ モード (配線)

運用するラベリアマイクロフォンを装着し、コネクター配線にあったモードに設定してください。MENU > Audio > Mic Mode に入り、'2W+B' に設定 (2 ワイヤバイアスの場合) してください。設定オプションは以下です。

[2W] [2W+B] [3W] [PHA60-12] [PHA60-48] [Instrum]

### ▶ レベル

【GAIN】ボタンを押すと音量ゲインを調整できます。-24~+26dB まで 1dB ステップで可変できます。マイクに向かって発声し、適切なインプットレベルにしたら【EXIT/OFF】で GAIN 画面を抜けてください。

### ▶ ハイパスフィルタ

Menu > Audio > HPF で低域成分をカットするハイパスフィルタを有効にできます。設定オプションは以下です。(FLAT/45/60/80/120/170/240 Hz)

### ▶ リミッター/フェーズ

Menu > Audio > Limiter でリミッターの On/Off を設定できます。

Menu > Audio > Phase で位相を 0 / 180 で反転できます。

## コンパンダー

MTP60 のコンパンダーは 'JNS' のみでメニュー設定はありません。  
(レシーバー側のコンパンダー設定を必ず 'JNS' にしてください。)

## RF Power 設定

RF Power オプションは、"10" と "L10" があります。6 波より少ない運用では"10" に設定することでトランスミッターのバッテリー消費を抑えることができます。"L10" は LINER の頭文字 "L" をとったもので、B 帯という狭いバンド内で多チャンネル運用するためのモードです。

## 周波数の設定

任意の運用周波数 (806MHz~810MHz) で、レシーバーと同じ周波数に設定してください。【CH】 ボタンを押して、'Gr' と 'Ch' の組み合わせで周波数を設定できます。

## 赤外線シンク

赤外線通信により、レシーバーで設定した周波数とコンパンダー設定をトランスミッターに同期させることができます。

### 1) トランスミッターの準備

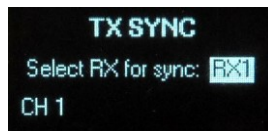
MTP60 の赤外線通信ポートは、ディスプレイのすぐ上にあります。MTP60 を赤外線受信モードにするには、**MENU > IrDA** と操作して 'IR active...' と表示させてください。

赤外線受光部 ↓



### 2) レシーバーの準備

MCR54 【SYNC】 ボタンを長押ししてシンク設定画面に入ります。 Select RX for sync: RX1 が点滅するので、同期させたいレシーバー番号に設定し、【MENU/SEL】 ボタンを押すと 30 秒間だけ SYNC モードに入ります。



### 3) シンクさせるには。

赤外線通信用の受光部が向かい合うように、ユニット双方の向きと位置を調整してください。

通信中にコンパンダーやモジュレーションの設定変更を MCR54 画面で尋ねられた場合、

Change  
Compander to  
\*\*\* Wisy

変更を承認するために【MENU/SEL】ボタンを押したときに、両者の赤外線受光部が向き合っていないと通信エラーを起こすことに留意してください。



## レコーダー機能

### ▶ 録音設定

microSD カードにオーディオ信号を録音することができます。録音は必ず MPT60 でフォーマットされたメディアを使用してください。

録音開始前に、MENU > Recorder > Bit Depth で WAV ファイルのビット深度の設定 (24bit/32 bit) を確認してください。'32bit'に設定すると 32bit floating で録音されます。

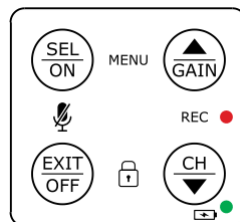
WAV ファイルとしてユーザーは、Scene (1~99), Shot (アルファベット 1 文字), を指定でき、録音回数は Take 番号で管理されます。



## ▶ 録音のスタート・ストップ

【GAIN】と【CH】ボタンを同時に押すとレコーダー画面に入ります。

【START】にカーソルを合わせた状態で【SEL/ON】ボタンを押すと録音スタート。【STOP】表示の時に【SEL/ON】ボタンで録音停止。



【JAM】表示の時に【SEL/ON】ボタンを押すと入力されたタイムコード信号に MTP60 が同期します。

## Bluetooth 通信 'Wiscom BT'

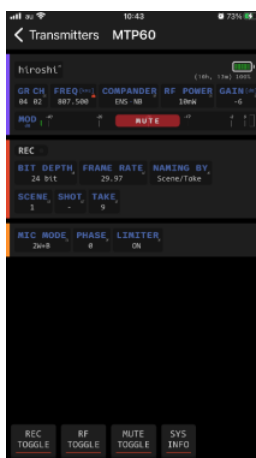
Android や iOS のモバイルデバイスにて Bluetooth で接続して MTP60 や MCR54 をリモートコントロールできます。

### <MTP60>

周波数、ゲイン、HPF の設定や録音スタート・ストップも制御できます。

### <MCR54>

周波数、コンパウンダーの設定やグループスキャンができます。



## B 帯の周波数

### GP と CH

B 帯はグループ (GR) とチャンネル (CH) の組み合わせで運用できるようにプリセットが組まれており、同じグループ (GR 1~7) 内のチャンネルに設定することで混信することなく運用できます。

### 15 波の多チャンネル運用

Wisycom ワイヤレスシステムは L10 モードに設定することで最大 15 波※まで同一空間で運用することができます。GR を 00 に設定し、下記の表の帯カラーのチャンネルに合わせて運用できます。

CH	周波数		
1	806	125	1
2	806	250	1
3	806	375	2
4	806	500	2
5	806	625	3
6	806	750	3
7	806	875	4
8	807	000	4
9	807	125	5
10	807	250	5
11	807	375	6
12	807	500	6
13	807	625	7
14	807	750	7
15	808	875	8

CH	周波数		
16	808	000	8
17	808	125	9
18	808	250	9
19	808	375	10
20	808	500	10
21	808	625	11
22	808	750	11
23	808	875	12
24	809	000	12
25	809	125	13
26	809	250	13
27	809	375	14
28	809	500	14
29	809	625	15
30	809	750	15

※ Wisycom の多チャンネル伝送技術

狭いバンドで 15 波を運用できるように、送信機と受信機の両方に優れた技術が用いられています。相互変調歪 (インターモジュレーション) が発生しないように、送信機にはキャンセラー回路が設けられています。受信機では精度の高いフィルタ回路を搭載することで多チャンネル運用を最適化しています。



## 日本テックトラスト株式会社

営業所

〒151-0062 東京都渋谷区元代々木町 30-13 ONEST 元代々木スクエア 1 階

E-MAIL : [sales@tech-trust.co.jp](mailto:sales@tech-trust.co.jp) URL : <http://www.tech-trust.co.jp>